

国際ワークショップ

日欧戦後政治学の比較発展史

専門化とタコツボ化が指摘され、今「何のための政治学なのか」ということがますます問われるようになってきている。本ワークショップでは、ヨーロッパと日本の政治学者たちを迎えて、戦後の日欧での政治学的发展を振り返りつつ、新たな展望を探る。

報告（欧州）

ジャック・カプドヴィエル

（パリ政治学院／フランス政治研究センター教授）

「政治学という相対的に新しい社会科学（A young discipline, regarding the other social sciences）」

オリヴィエ・ローゼンベルグ

（フランス政治研究センター／仏国立科学技術センター研究員）

「フランス政治学：分断と展望（French political science: a divided present, an open future）」

報告（日本）

網谷龍介（明治学院大学国際学部）

「政治学の多様性（Varieties of Political Studies）」

福元健太郎（学習院大学法学部）

「日本の政治学者、海外の政治学（Japanese Political Scientists and Political Science in Foreign Countries）」

討論：空井 護（北海道大学法学研究科）

司会：吉田 徹（北海道大学公共政策大学院）

日時： 2009年2月24日（火） 13:30～15:30

会場： 北海道大学 経済学部3F会議室

使用言語：英語／日本語

※テーマに関心のある方なら誰でもご参加いただけます。

主催：北海道大学グローバルCOEプログラム「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」
北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター

後援：日仏政治学会

お問い合わせ

北海道大学大学院法学研究科

グローバルCOEプログラム『多元分散型統御を目指す新世代法政策学』

TEL/FAX：011（706）3930